

#### カザフスタン国アスタナで 「青少年への投資に関する大臣・国会議員国際会議」開催

カザフスタン共和国の首都アスタナで、10月19～20日に「青少年への投資に関する大臣・国会議員国際会議」が、カザフスタン議会、社会開発省と公益財団法人アジア人口・開発協会（APDA）の共催で実施され、日本信託基金（JTF）を通じ、国連人口基金（UNFPA）が後援しました。

人口転換の進捗に伴い、現在10～24歳の若者人口が歴史上最も多くなっています。青年への投資は世銀が主導する人的資本への投資の中核を成します。いま若者への投資を行うことが、平和的かつ包含的で、持続可能な社会と、経済的に活力ある社会を実現するために極めて重要であるという観点から、本会議は開催されました。

会議には、アジア・太平洋地域を中心に、アラブ、アフリカ、ヨーロッパ35か国より、国会議員、大臣、専門家、国連機関代表、学界、民間セクター、NGO代表など総計200名が参加し、日本からは福田康夫 元日本国総理大臣・APDA理事長・JPFP名誉会長、武見敬三AFPPD議長・JPFP幹事長、逢沢一郎JPFP会長代行、牧島かれんJPFP女性問題部会副部会長が参加しました。



開会式は、ヌルラン・ニグマトゥーリン国会議長の歓迎挨拶に続き、福田康夫APDA理事長が主催者挨拶を行いました。福田康夫APDA理事長は、資源のない日本が積極的な教育投資を実現したことが、日本の発展の基盤になったことを紹介し、AIシンギュラリティなど科学技術の画期的な進歩が予測される中で、これまでのような知識中心の教育・

訓練制度ではなく、若い人の持つ“なぜ”という疑問を大事にするような、教育・訓練システムが重要になってくるだろうと、ビジョンを述べました。

そして、「ここにいる全ての人にも若者だった時期があった。その時に夢や希望もあったが、様々な苦しさにも直面してきた。私たち自身が若返る事ができれば、これほど素晴らしい事はないが、そうできない以上、自分たちが経験した苦しさや辛さを、今の若者が経験しないで済むように積極的な投資を行い、支援を行うことは、今に生きる私たちの使命であろう」と述べました。

川端一郎 駐カザフスタン日本国大使からは、日本政府を代表して会議開催を祝福し、資金供与を通じてこのような重要な会議に貢献できることを誇りに思う、との挨拶が述べられました。



続くセッション1「青少年の教育と雇用機会の拡大に向けて」では、これまでの経験が必ずしも有用でない中で、新しい試みを行っていく必要性が強調されました。

セッション2「健康情報、教育、サービスを全ての人を受け入れることによる青年の健康と生活の改善」では、セッション議長を武見敬三AFPPD議長が務め、若者が健康に対する十分な知識や情報を得て、必要に応じて適切な健康サービスを受けられるようにすることが、リプロダクティブ・ヘルス（RH）の達成を通じた人口問題解決の基盤であり、新しい時代の活力を造りだす基盤であることを強調しました。



続く討議では、牧島かれんJFPF女性問題副部会長が、2020年の東京オリンピックに向け、女性アスリートの健康問題について各国で議論を進めていくことを提案し、また災害対応で若者がボランティア活動などの若者の社会・政治参加の事例を紹介し、参加者から共感を得ました。

セッション3「青年の市民社会、政治、社会分野への参加の推進」では、若者の政治への関心を高め、次世代の政治的指導者の育成の努力が紹介されました。

セッション4「グローバル化の中での青少年にとっての機会とリスク」では、高橋博史 外務省参与・元駐アフガニスタン大使が「若者世代と農業－地域における国境を越えた協力」と題した講演を行い、日本の伝統的な農業の技法を適用し、不毛の土地とわれてきたアフガニスタンのガンベリ砂漠を沃野に変え、食料生産の基盤を再生した実例を挙げました。その上で、若者への投資の中で低開発国を中心に農業分野への関心を高めることでもたらされる、食料確保、若者への雇用提供などの現実的な対応の重要性を説明しました。

その後、国際移民機関（IOM）の発表に対し、逢沢一郎JFPF会長代行・UNHCR議連会長は、移動せざるを得なくなった結果生じている難民の問題と、自発的な移動、さらにその中間的な人口移動に対し、IOMが果たしている役割について質問しました。これに対し、IOM局長は、「IOMとしては、移動する人たちの支援をすることが使命であり、難民や自発的移動などの移動する人の定義の違いに基づいて活動するのではなく、移動する人たちが直面する課題に対応することを目的に活動としている。IOMとしての難民支援は限られているが、いずれにしてもレジリエンスを確保することを基本的な理念としている」と説明しました。最後に、討議結果をまとめた「総括及び最終文書の採択」が行われました。

閉会挨拶では、武見敬三AFPPD議長は、会議開催に尽力したカザフスタン議会・政府に感謝を述べるとともに、アジアの各地域で異なる人口ボーナスの時期を活用し、この機会を活かすことこそが、地域発展とSDGsの達成に向けて重要な意味を持つこと、さらに若者の貧困などにも言及し、各国ごとに異なる問題に直面していても、政治家は同じ責任を共有することを指摘し、SDGs達成に向け世界が連携する必要性を強調しました。

本会議は、中央アジア地域のみならず、アジア太平洋地域における青年への投資に焦点を当てた国会議員会議として、最大規模のものとなりました。

\*\*\*\*\*



国際人口問題議員懇談会（JFPF）事務局  
（公財）アジア人口・開発協会（APDA）

TEL: 03-5405-8844

FAX: 03-5405-8845

E-mail: [apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp)

Website: <http://www.apda.jp>